

昭和二十五年十二月二十三日受領
答 弁 第 一 一 号

(質問の 一一)

内閣衆質第一号

昭和二十五年十二月二十三日

内閣総理大臣 吉田 茂

衆議院議長 幣原喜重郎 殿

衆議院議員横田甚太郎君提出ゴムの輸出入等に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員横田甚太郎君提出ゴムの輸出入等に関する質問に対する答弁書

一 輸入について

本年一月より十月までの地域別の生ゴム輸入数量は、約四〇、〇〇〇トンに達している。

買付価格は、海外相場の変動に伴って多大の変化があつた。生ゴムの海外相場は、本年初頭以来逐次上昇し、特に朝鮮動乱ぼつ発以後は予想外の暴騰を示し、現在は一ポンド当六十仙（一トン当約四十八万円）であり、日々の騰落が極めて激しい状況である。

二 消費について

本年一月―十月の生ゴム消費は、製品別に見ると左の通りである。

自動車タイヤチューブ

自転車タイヤチューブ

ゴム履物類

ベルトホース

その他

電線

三 日本経済再建に與えた利益について

本年初頭ゴム製品の統制全廢により、生産は急激に上昇し、運輸用資材、労務用物資及び機械設備附属品として、各方面において日本経済再建に大きな寄與をなしているものと考えられる。

四 今後の輸入の見透し

最近の国際情勢の影響を受け、生ゴムは、戦略物資として各国の買付の対象物資となり、その価格においても先述のごとく、海外相場の暴騰を示しており、情勢が更に悪化する場合においては、今後の輸入について困難を生ずるおそれもないではない。

右答弁する。